

令和4年度 白川郷学園 社会科研究構想

【研究主題】一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

社会科部が育てたい「ひとりだち」した人物像

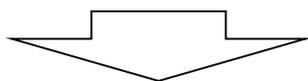
よりよい社会を実現するために、確かな事実をもとに、広い視野に立ち、自らの社会の関わり方を主体的に選択・判断し、行動ができる人。

研究内容(1) 9年間を見通した「先を読む力」の明確化

前期課程		後期課程
3・4年生	5・6年生	7・8・9年生
生活実感（家庭生活や体験活動）を基にして考えたことを、地域の人や生活と関連付けて考え、問題の解決方法を生み出す力。	社会的事象を位置や空間、時期や推移などに着目して捉え、複数の立場から多角的に考え、問題の解決方法を生み出す力。	社会的事象を多様な視点に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、複数の解決方法を選択・判断し、よりよい解決方法を生み出す力。

研究内容(2) 児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化

【日常的な実態把握】	【客観的データの活用】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発言やつぶやき ・ 学習ノート記述 ・ 確かな情報を話題とした会話 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト、実力テスト ・ レディネステスト ・ 社会科アンケート結果（社会的事象に対する認知度）



実態に適した児童生徒への手立ての明確化

研究内容(3) 一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

○学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫	○試行錯誤を生み出す展開の工夫	○一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がもつ認識と事実とのズレから、児童にとって必然性のある問いを生み出す、資料提示や発問の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追究視点と方法の明確にするための、問題解決の見通しをもつ場の設定。 ・ 仲間との対話から、考えを広げたり深めたりするための交流や発問の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの変容や深まりを実感することができるための視点を明確にした、ふり返りの場の設定。